

別紙

戦史資料調書

部隊名

台湾憲兵隊司令部 部隊長名 上砂勝七

部隊履歴

概要

昭和七年五月軍令ニ依リ台湾憲兵隊編成セシレ
隊司令部ハ台北市内ニ位置シ今日ニ至ル新設當
時ハ隊下ヲ台北台南ノ兩隊ニ分轄セラレアリシモ
同十九年八月改編ニ依リ更ニ花蓮港隊ノ増
設ヲ見タルカ同二十三年三月改編ニ依リ台北隊ハ
廢廢トナリテ台北新竹台中三州ヲ直接管轄
スル處トナリ同年八月終戦ニ伴ヒ全島五州三廳
ニ夫レ一地區隊ヲ新設セラルノ至ル

(別紙台湾憲兵隊略歴ヲ参照)

1735

<p>給養</p>	<p>参戦主として 戦(戦用)ノ概要 死傷、損耗</p>	<p>指揮隷屬關係 及其變遷ノ概要</p>
<p>一給養 台湾軍經理諸規定、定ル處ニ依リ一般陸軍諸 部隊同様、給養ヲ受ク 炊事、隊員數、多寡施設、關係等依リ部隊</p>	<p>大東亞戰役ニ参加セルモ特記スヘキ戰用 行動ナシ</p>	<p>憲兵司令官ニ隷シ軍事警察ニ関シハ台湾軍司令 官行政警察ニ関シハ台湾總督ノ指揮ヲ受ク 終戦ニ伴ヒ憲兵司令部ノ役員ニ依リ台湾軍管 区司令官ニ配屬セリ其隷下ニ入ル</p>

衛生

炊事又請負賄、實施シ來レリ

二衛生

隊司令部ハ衛生部員、配屬ヲ見タルニ依リ台北地区
隊本部及台北分隊、三六隊司令部医官、診療ヲ受ケ
タルモ他、地区(分)隊ハ衛生部員、配屬ナキヲ最モ
陸軍病院附医官、兼掌ヲ依嚙シ隊員、医療ヲ
受ケアリタリ

終戦ヨリ歸
還迄ノ

終戦後憲兵兵力、増強ニ伴ヒ島内各部隊ヨリ五〇〇
名、松官乾種者、松屬ヲ受ケ爾後専ラ自隊並ニ
管内日本軍諸部隊、軍紀風紀、取締非違犯罪ノ
警備ニ任シアリシモ其、後中國側、指令ニ基キ七月

<p>行動概要</p>	<p>上旬以降隊下ニ兵〇〇名、武装憲兵ヲ残置シ、陸海軍諸部隊ニ既属スルト共ニ兩余ハ之ヲ原所属部隊ニ復歸セシメ、隊司令部ハ台湾軍管区司令部(台湾地区)日本官兵善後連絡部(既属セシメ)歸還ニ至ル</p>
<p>其他部隊、経歴中特異ト記スル事</p>	<p>歸還ニ際シ、残務整理、爲_ニ平_ニ各_ヲ台湾軍管区司令部(日本官兵善後連絡部)内ニ残置セリ</p> <p><small>善後連絡部駐在所に於て要員トシテ上ノ名ヲ</small></p>

項

台灣憲兵隊略歴

一 昭和十七年五月以前

台灣憲兵隊、編成ナク、台北及台南西憲兵隊独立ニ
アリ、但シ台北憲兵隊長ハ警備業務ニ關シ、台南憲兵隊
長ヲ區長ニテリキ

五月ニ於ケル、台北隊長ハ大佐石田乙五郎

台南隊長(代理)ハ中佐谷口春三

ナリ

二 昭和十七年五月、編成改正

(一) 軍令ニヨリ台灣憲兵隊編成セラル

(二) 隊長司令部ハ台北市ニ位置ス、台北憲兵隊本部ハ市中ニ
位置シ、其管區ハ台北、台中、新竹、各州及花蓮、臺東、
各廳ナリ

台南憲兵隊本部ハ台南市ニ位置シ、其管區ハ台南、高雄

陸 録

各州及澎湖等十リ

三) 當時ニ於ケル隊司令官ハ別ニ台北隊長石田大佐ニシテ

台北隊長ハ中佐 谷口春ニ

台南隊長ハ中佐 豊永調雄

十リ

三) 隊司令官更迭

石田少將ハ憲兵隊長ニ転出シ新隊司令官ニ少將 納見敏郎

南シテ 昭和十九年一月着任ス

(石田隊司令官ハ昭和一八三少將ニ進級セリ)

四) 昭和十九年八月ノ編成改正

一) 軍令ヨリ新ニ花蓮港憲兵隊編成セリ 花蓮港台東ニ廳ヲ

管轄スル 台北隊ハ從來ノ管区ヨリ右三廳ヲ削除セラル

三) 當時ノ隊司令官 隊長

隊司令官 納見少將

(北刑終)

台北隊長中佐 加藤清一 (昭二八七補職)

台南隊長中佐 西井源之丞 (昭一九三補職)

花蓮港隊長中佐 伊藤長三郎 (昭二五八補職)

五 隊員令官吏送

納見中將 (元八中將進級) 師團長 轉出新隊員令官 少將上砂勝七 補セラレ 昭二〇年一月着任又

六 昭和三年三月ノ編成改正

一 各州(廳)毎ニ一地區憲兵隊ヲ設置スルコトニ定メラル

二 札幌支隊ノ如シ

台北地區憲兵隊 台北州 中佐 伊藤長三郎

新竹 " " 新竹 少佐 牛山晴登

台中 " " 台中 少佐 高宮廣治

台南 " " 台南 中佐 加藤清一

高雄 " " 高雄 少佐 平井秋雄

花邊港地区境の部隊花邊港駐少佐 宮原正嘉

台東 少佐 石森松太郎

澎湖島 澎湖廳 大尉 志苦 昂

昭和三十年八月終戦

昭和三十年九月 憲兵増進

終戦後、治安上、見地、基本從來、約二千名、憲兵ヲ概

一萬六千名ニ増進ス

管内に從前通りトシテ概テ銜在。至ル程約七〇名ノ分遣

隊ヲ配置ス

九昭和三十年十月、憲兵、諸少

中國側ニ要求ニ基キ武裝憲兵トシテ三六。名ヲ存置シ

他、夫、京所屬部隊ニ復歸セシメ、現在ニ至ル。

(北列島)